

# (仮称)長崎港松が枝地区新国際ターミナル整備事業について

- ・現在、クルーズ船の寄港需要や大型化に対応するため、岸壁を延伸し、大型クルーズ船(16万総トン級)2隻の同時着岸を可能とする「2バース事業」が進行中
- ・2バース化で必要となる新国際ターミナルやツアーバス駐車場等の設計・整備・運営・管理は、PPP/PFI手法の導入を検討中

## 事業概要(予定) ※青字:公共事業(従来手法) 赤字:PPP/PFIの導入検討

### 【岸壁】

- ・16万GT級の大型クルーズ船(長崎港寄港可能最大クラス)が2隻同時に着岸できるよう、既存岸壁を南側に410m延伸

### 【埠頭用地】

- ・2隻同時着岸に対応した新国際ターミナル・ツアーバス駐車場用地
- ・親水空間、クルーズ歓迎のための緑地用地

### 【道路】

- ・東西方向:地区の最南に、国道499号から岸壁への接続道路(臨港道路B)
- ・南北方向:国道499号に並行して、大浦警察署前の交差点から臨港道路Bへの接続道路(臨港道路A)

### 【新国際ターミナル】

- ・スペクトラム・オブ・ザ・シーズ※(最大旅客約5,600人)級の2隻同時着岸が可能なターミナル(発着対応は16万GT級1隻) ※16万総トン級のうち、旅客数が最も多いクルーズ船として設定

### 【ツアーバス駐車場】

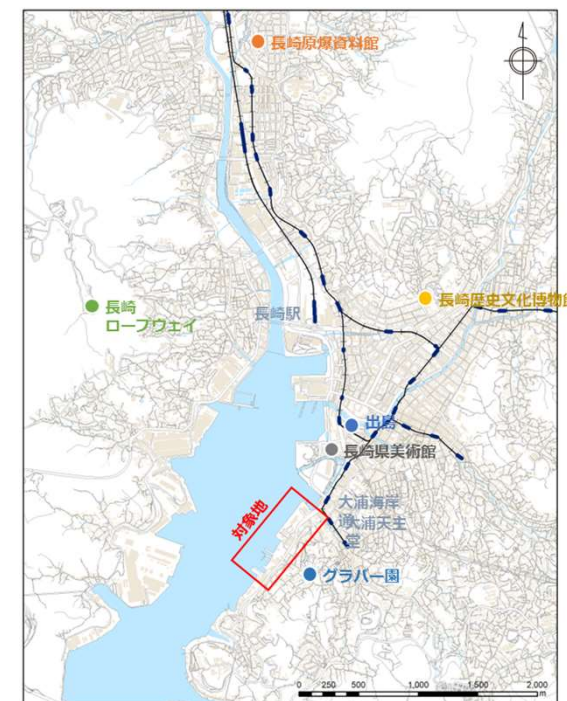
- ・16万GT級の大型クルーズ船が2隻同時着岸した際に必要な駐車場(100台程度)

### 【緑地】

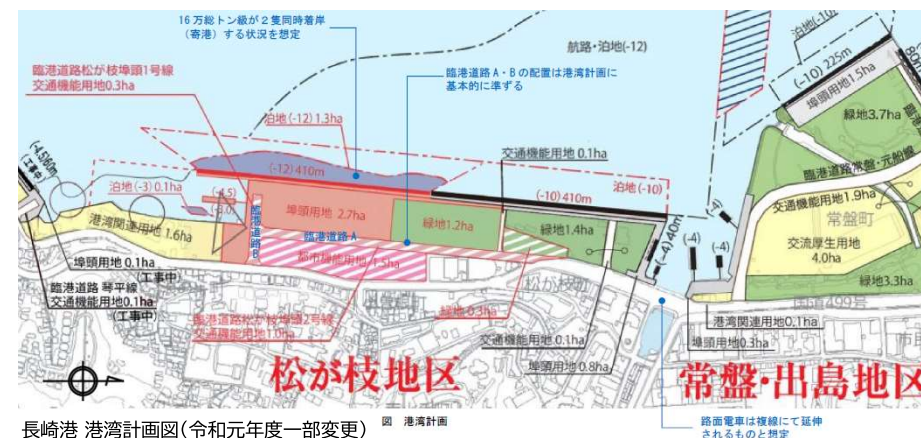
- ・来訪者の憩い、交流、親水空間
- ・クルーズ歓迎用地
- ・港の良好な景観形成

### 【既存ターミナル】

- ・第1ターミナルは、既存建物を活用し、収益施設として管理・運営
- ・第2ターミナルは、既存建物の活用判断を含め、収益地として管理・運営



出典:長崎県観光統計データ



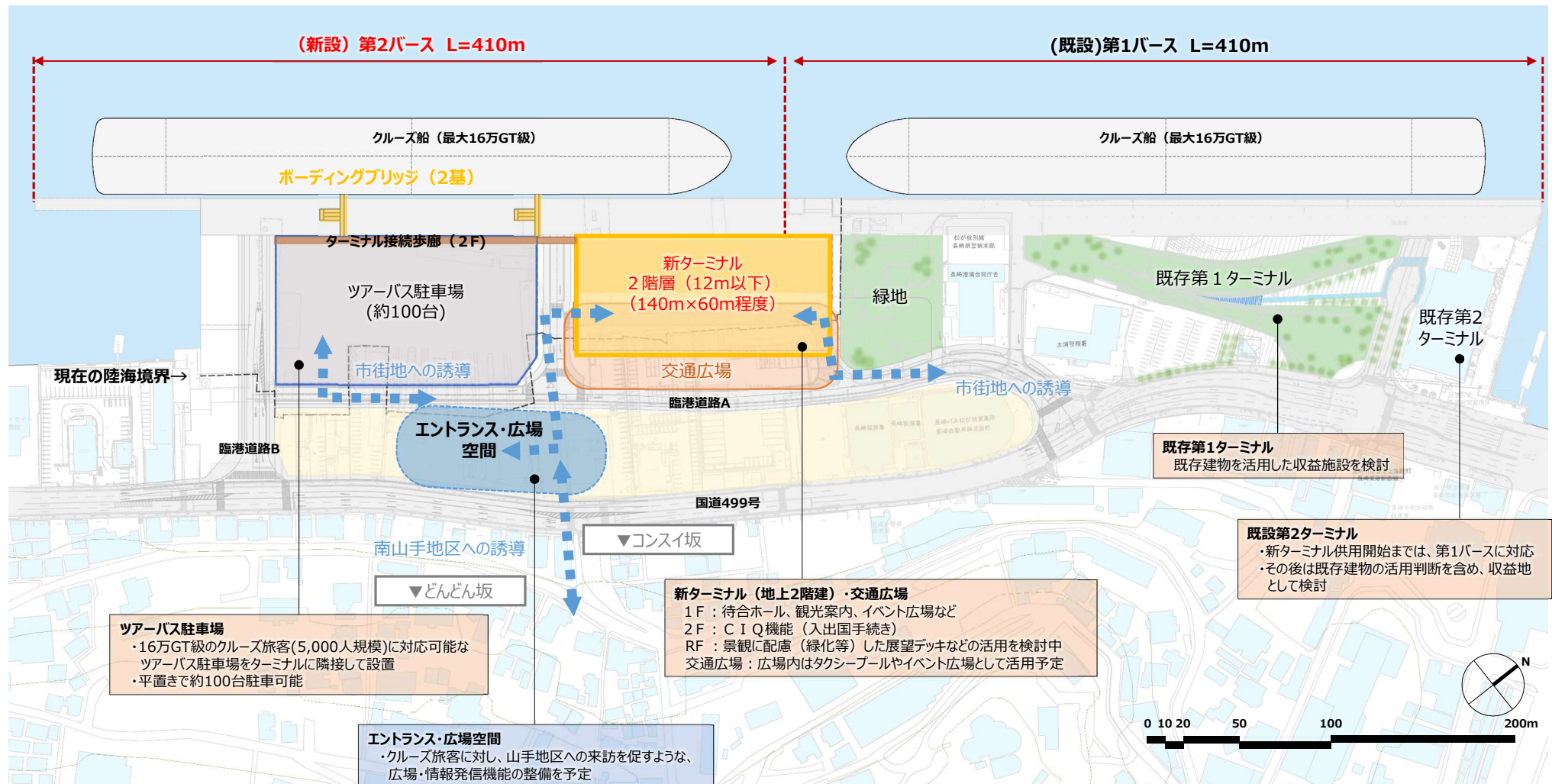
長崎港 港湾計画図(令和元年度一部変更) 図 港湾計画

路面電車は複線にて延伸されるものと想定

# (仮称)長崎港松が枝地区新国際ターミナル整備事業について

## 全体レイアウト(案)

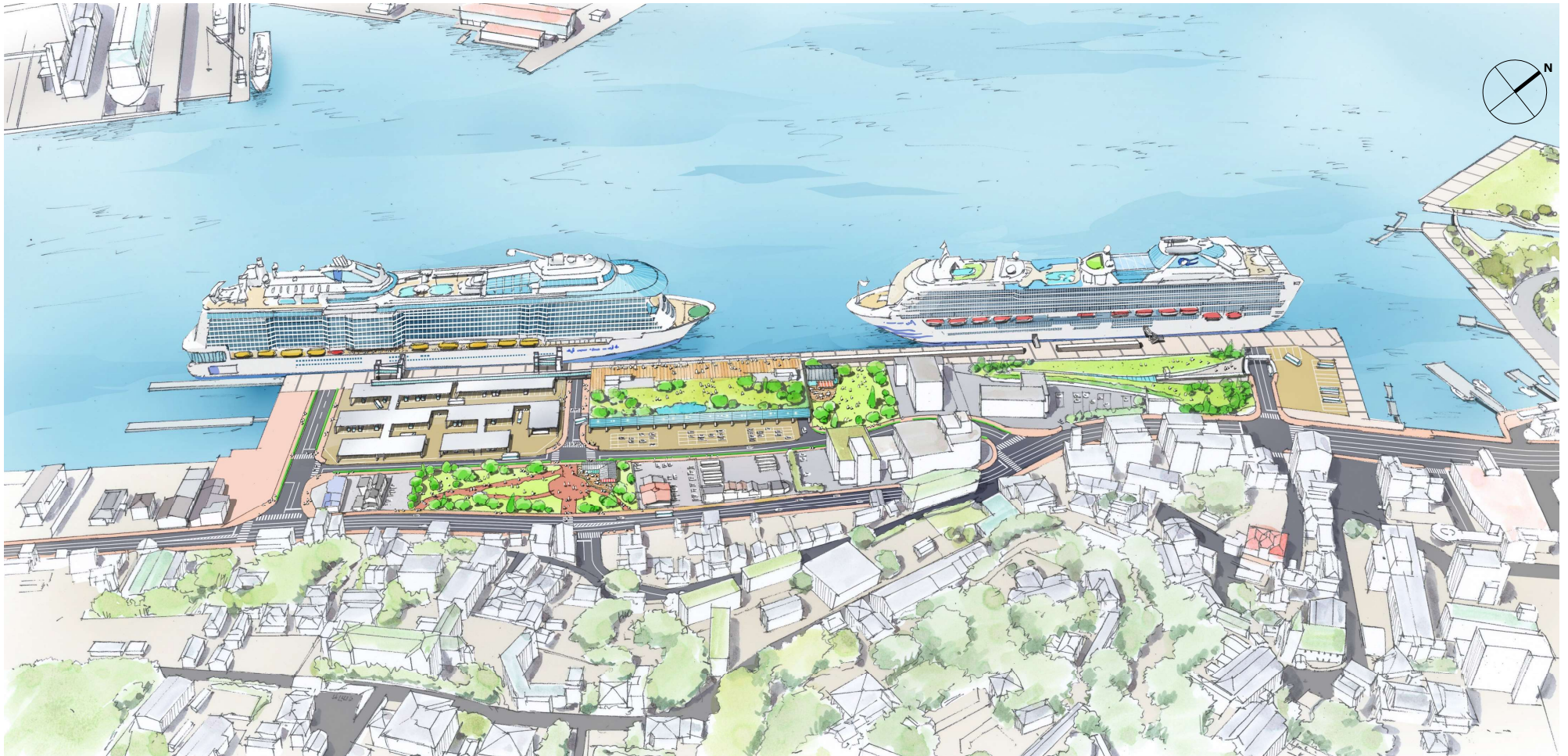
- ・新ターミナルは両バースに対応する機能(クルーズ船16万GT級×2隻)を岸壁中央部に集約して配置
- ・クルーズ旅客の利便性向上のため、交通広場(タクシー、路線バス、乗用車)、ツアーバス駐車場をターミナルに隣接して配置
- ・新岸壁には、新ターミナルへ接続するためのボーディングブリッジ及びターミナル接続歩廊を設置
- ・既存第1ターミナルは既存建物を収益施設として活用、既存第2ターミナルは既存建物の活用判断を含め、収益地として検討
- ・コンスイ坂から海側は、眺望確保のため視界を開かせ、臨港道路AとR499の間にエントランス・広場空間を整備





# (仮称)長崎港松が枝地区新国際ターミナル整備事業について

## イメージパース図(山手側からの鳥瞰)



※イメージであり、整備内容が決定しているものではありません。

## PPP/PFI手法の導入目的

- ①ターミナルやツアーバス駐車場、緑地整備に関する民間事業者ノウハウの導入や、民間事業者による一体的な自主事業の実施を促すことでクルーズ旅客やクルーにとって、来訪満足度の高い受入体制を整える。
- ②施設の利活用や土地の有効活用により、観光客だけでなく、周辺利用者へのサービスを向上させ、地域全体の賑わい創出に繋げる。
- ③設計・施工・管理一体型によるコスト縮減効果や、長期的な運営による質の高いサービスを提供する。